

被爆70年の聞き取り

「“ノーモア・ヒバクシャ”を実現するために」

広島・長崎の被爆から間もなく70年を迎えようとしています。

この長い間、被爆者のみなさんはどのように生き、何を願って生きてきたのでしょうか。

この「聞き取り」は、いま人生の最終ラウンドを迎えた被爆者のみなさんの思いのたけを語っていただき、聞いた人がそれを受けとめ、次の世代につないでいこうという取り組みです。

この聞き取り票には6つの質問項目を設けてありますが、その内容は大きく分けて、被爆したときのこと、その後の人生、そして今願うこと——の3点です。すべての項目を埋めなければならない、ということはありません。話していただくきっかけとして、この項目どおり質問していくこともあるでしょうし、自然な流れで話していただいて、あてはまるところに記入していくということもあると思います。

語り手と聞き手の交流の中で、被爆者のみなさんの生きてきた証を受けとめていきましょう。

この「聞き取り」でうけとった被爆者一人ひとりの声は、2015年のNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に届けるなど、さまざまなステージにおいて活用し、核兵器廃絶への国際世論を高めることにも反映させたいと思います。

2013.6 日本原水爆被害者団体協議会

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

■ 基本事項 (太線の枠内にご記入ください)

記入年月日	2013年5月31日	整理No.	—
ふりがな 氏名	木内 恭子 (きうち ゆきこ)	性別	1. 男 2. (女)
生年月日	明・大(昭) 10年 月 日 (被爆時年齢 9歳)		
現住所	〒 電話: FAX:		
被爆地	1. (広島) 2. 長崎 [町名 吉島町 距離 1.6 km]		
手帳区分	1. (直爆) 2. 入市 3. 救護 4. 胎内 5. 健康診断受診者証 [一種・二種] 6. 被爆者の子1名・孫3名 7. その他		
氏名の公表の可否	1. (可) 2. 不可		

1. 「あの日」やその直後のことで、今でも忘れられないこと、心残りなことはどんなことですか？

とくに忘れられない光景や、それを見て感じたことを具体的にお聞かせください。

〔被爆時、年齢が幼くて当時の記憶がない方(被爆二・三世の方)について〕

自分が被爆者(被爆二・三世)であることを、いつ、どのようにして知りましたか。

父が広島刑務所に勤めていて、刑務所内の官舎に住んでいた。家族は8人、いちばん上の姉は茨城師範、次姉は市内は空襲の危険があるので広島の奥、西条の看護学校に、長兄は佐賀におり、一緒に暮らしていたのは父と母、すぐ上の兄と私、幼児だった弟の5人暮らしでした。

当時は空襲が激しくなっていたこともあり、周りは疎開する家が多かったが、父が官吏で、2年前に高知から転勤してきたばかりということもあり疎開はしなかった。学校は二部授業になっていて5年生以上は本校の中島小学校へ、4年生以下は近くの鶴の湯というお風呂屋さんが分校になっていて、そこで授業を受けていた。

8月6日はよく晴れていた。朝8時前、B29が広島の上空に接近、空襲警報が出たがすぐに消えたため解除になり、やがて警戒警報も解除になった。空襲警報が出ると防空頭巾をかぶって防空壕へ入らなくてはならないが、すべて解除になったので兄は中島小学校へ、私は鶴の湯の分校と一緒に登校した。家からより近い分校について荷物をかごに入れて、女の子5～6人でお風呂屋さんの前の路地で石けりをはじめた。男の子たちは浴槽の方で遊びまわっていた。

私が石けりをはじめたときに突然ピカッとするどい光を感じた。私はその時気絶、気がついたら真っ暗闇。しばらくしたら周りが夕暮れ時のような明るさになってきた。その明るさの中で私はひとりお座りをしていた。お友だちは一人もいない。周りの建物がみんな潰れていた。私の身体は頭と足のくるぶしに大きなコブができていた。これは何が起こったんだろう？とそのまま座り込んでいた。

やがて倒れた建物から人がムクムクと出てきた。顔は血だらけ、衣服は引きちぎれたボロボロの姿であった。その時は私の周りには火の手は上がっていなかった。お風呂屋さんの周りには朝鮮の人がたくさん住んでいた。「アイゴー、アイゴー」と言いながらガレキの中からムクムク出てきた人たちは歩き始めた。こんな人ばかりでもこの人についていけば何とかなるだろうと私も歩いていく人の流れについて歩いて行った。人の流れは中心部から川沿いに吉島飛行場の方に流れていく。これはあとでわかったことで、方角は私には全くわからなかった。途中、この流れの中の一人の男の人が「ゆっこ」と声をかけて手を握ってきた。顔が大きく腫れあがって服も焼けているので、誰か分からないけれど、名前を呼ばれたので私のことを知っている人だと思った。手をつないでひたすら歩いた。それが兄だった。

高い刑務所のコンクリート塀が見えてきて、倒れていなかった。手を握ったその人が「門番さん、入れてー」と言うと、門番さんが扉を開けて入れてくれた。その時はじめて、それが一緒に登校した兄だとわかった。火傷で顔がはれあがり、全く別人に見えた。一緒にいた人たちも中に入れてくれと言っていたが入れない。一人として入れてもらえなかったあの人たちはどうなっただろう？門番さんも火傷していた。詰所の火鉢の灰をわからない油と混ぜて兄にも塗ってくれた。

いちばん心配していた母は子どもが学校に出た後、弟を連れ医務課長さんのお宅にお花の種をいただきに行き、玄関を開けたところでピカッという光を感じた。気がつくとも家が潰れていた。弟は爆風で吹き飛ばされ、奥の八畳間に爆風で持ち上がった畳の下になっていた。弟を助け出し抱いて

表に出たところで私に出会った。母は全身にガラスが刺さった状態だった。

刑務所内に治療病舎ができて、大腿骨骨折の父と火傷の兄はここに入れられた。弟の顔の切れたところは麻酔なしで縫った。その頃には市内は火の海となっていた。私たち家族は毎日野宿した。何日燃え続けたかわからない市内。

火事がおさまると刑務所から広島駅が一直線で見えるようになっていた。刑務所の前の川(本川)は、どこのだれかもわからない、真っ黒に焼け焦げふくれあがった人たちが、潮の満ち引きに揺られながらたくさん浮かんでいた。刑務所の四人さんがその人たちの引き揚げ作業をしていた。引き揚げられた人たちは役所の中の焼却場で焼かれていた。それが何日続いたのかわからない。

私たち家族は官舎が建つまでは野宿だったが、集団の中で保護されて生活できたので助かった。しかし街の人たちは水も薬もない中で亡くなっていった。

2. 被爆してから今日までの人生で、とくにあなたの心に残っていることはどんなことですか？その中で被爆したためにつらかったことがあれば、お聞かせください。

(例)・家族を失った	・病気がちになった	・自分の健康がいつも不安
・就職・仕事が思うようにならず		・進学や学業が思うようにならず
・結婚・家庭生活が思うようにならず		・子供や孫の健康・将来が不安
・被爆をかくして生きてきた		・あの日のできごとが心の傷になって残った

また、そのつらさを抱えながら生きてくるなかで、あなたの支えになったのはどんなことですか？

終戦のあくる年の4月に父が定年で父の実家がある茨城に住むことになった。茨城での暮らしの中では被爆者だということで差別されたりすることはなく疎外感はなかったが、父の退職金と教員の姉のお給料だけでは子どもの教育でお金がかかるし大変だったと思う。兄の火傷も治るまで1年近くかかったがお医者さんにかかれる状態ではなかった。具合が悪くても被爆者に対する医療もなかったから寝て治したし、そのときは「日射病にでもなったかな？」とあまり気にしなかった。

私は高校卒業後、義兄に私の進路として看護師になることの勧めもあり、私も希望し、茨城の国立看護学校に進み看護師になった。出向で国立東京第二病院に勤め、結婚して子供も授かった。妊娠中は田町に住んでいたがつわりがひどく電車では一駅ごとに降りるような状態で体重も37～8Kgまで痩せた。しかし子どもは正常だったので本当によかった。その娘も結婚し現在3人の子どもに恵まれた。娘が幼稚園児のとき主人の転勤で川口に住むことになった。

その後、埼玉協同病院へ再就職し外科に10年以上勤務したが、ずっと手術室勤務のためハードワークもあり体調を崩し、52歳の時に退職した。早く骨が悪くなるのは成長期に受けた原爆放射線の影響かとも思った。

また、高校2年生の夏、それまで無遅刻・無欠席だったのがホームルームの時間に貧血と胸背部の穿通様の痛み(狭心症的発作もあったが)で倒れた。その時にはじめて原爆のせいかなと思った。看護学校を受験するときに採血があったが、私は血管が細くなかなか採血できない。その時も被爆のせいかなと思った。

そのこと以外は自分の被爆を意識しなかった。(特に看護師になってからは全くなかった。)

4. あなたのまわりで亡くなられた被爆者について、忘れられないことや言葉があればお聞かせください。

あの日、亡くなった同級生の秀夫ちゃん(庶務課長の息子さん)のことが忘れられない。お風呂屋さんに一緒に行ったが、建物の中で亡くなった。

野宿の何日目か、お父さんから秀夫が帰ってこない、死んだとわかってどうしてもあのお風呂屋さんに探しに行きたいからと案内を頼まれた。私は囚人さんにおんぶされてお父さんとお風呂屋さん(の跡)に行った。焼け跡までは熱くて、何回も熱い長靴を防火用水の中に入れ、また歩いた。スコップで焼け跡を掘るとたくさん骨が出てきた。お父さんが秀夫ちゃんに渡した切り出しナイフが見つかり、そのあたりのお骨を連れて帰った。でも、切り出しナイフは脱衣所のカバンの中にあっただけだし、あの時、男の子たちは浴槽の方で遊んでいた。骨は秀夫ちゃんではないと思ったが、そのことを口にすることができなかった。

原爆で行方不明になっていた人がある日突然帰ってきて、それから一週間くらいで怪我もないのに突然亡くなってしまふ。元気だと思っていた人が突然亡くなる。家に下宿していたお姉さんも全身火傷の重傷だったが、看病に来た妹さんが血を吐く、下痢など急性症状で亡くなった。恐ろしいことだと思う。

5. いま、被爆者として、アメリカ政府や日本政府にこれだけは訴えたいこと、求めたいと思うことはどんなことですか？

●アメリカ政府に対して

↑

核は作るな、持つな、使うな。人類の破滅だ。

↓

●日本政府に対して

国の謝罪は当然。被爆者援護法の現行法を一部改正してほしい。原爆症認定も線引きがたくさんある。苦しんでいる被爆者がたくさんいます。あの時、無残にも亡くなってしまった方々にも国はなんの償いもしていません。

3. 被爆者として、今一番困っていること、とくに心にかかっていることはどんなことですか？

(例) ・自分の健康 ・自分と家族の生活 ・子や孫の健康 ・原爆で死んだ人たちのこと ・また核兵器が使われるのではないかと ・日本がまた戦争する国になるのではないかと など

6. いま、被爆者として訴えたいこと、世界と次世代の人々にこれだけは伝えておきたいことをお聞かせください。

あの時戦争をしていたとはいえ、ある日突然原爆を落として市を全滅させるというのは許せない。原爆を受けてしまったのだからしょうがないと40～50年思っていたけれど、現在これからの子どもたちのこと、未来・平和を考えると核は一日も早くなくすことを考えなくてはならない。若い人たちにももっと平和に関すること、核のこと、勉強の場を作って学び正しく行動できる力をもってほしい。私た

ちは余生短い。今の政治だと日本がまた戦争する国になって若い人たちが、また同じような目に遭うのではと心配。

埼玉の被爆者は2000人以上、そのうち「しらさぎ会」会員は560人くらい、平均年齢は78歳。私たちに出来ることはいろいろな人たちに原爆のおそろしさを知ってもらうこと。二度とふたたび戦争もない、平和な未来であるようにと。今は、受け継ぎ手は多くはないし、話しても通り過ぎてしまう人が多いけれど、自分で出来ることをしないと、夢も希望も一瞬に奪い取られ死んでしまった人達に申し訳ない。語り部をすることは生かされた人間の義務と思う。本当にあった世界で初めての体験だから。

* 被爆の実相を伝え残すため、あらためて詳しくお話をうかがうことはできますか？〔可・否〕

〔聞き取りをおこなった方の記入欄〕

聞き取り日	2013年 5 月 31日	聞き取り場所	コーププラザ越谷(埼玉県越谷市)	
聞き手	コープみらい平和クラブ「えんどう豆」 (9名)	連絡先	被爆体験聞き書き行動実行委員会	
<p>聞き取りの感想、受け継ぎ手として世界と次世代の人々に伝えたいこととお書きください。</p> <p>〇〇:母が1945年12月生まれ。母の兄が戦死している。原爆のことは『はだしのゲン』を読んで知った。自分の子どもにも今日の聞いたことを伝えていきたい。</p> <p>木内:自分の体験は子どもが中学生の時に話した。孫にも伝えなくては思っている。来年は孫が4年生になるので話そうと思っている。戦争展の時に小学3年生の子どもが話を聞きたいからと「しらさぎ会」のコーナーにやってきた。ちゃんと受けとめてくれたと思う。</p> <p>〇〇:8月くらいに今日のように数人で被爆体験を聞く場をつくりたい。伝えることが大切。</p> <p>〇〇:初めて被爆の体験を生で聞いた。自分の親も戦争を体験した世代。親の体験を聞いておけばよかった。</p> <p>〇〇:言葉にならない。今、出来ることからしないとわけもわからず亡くなった人たちに申し訳ない。秀夫ちゃんのこと、ショックだった。お父さんの気持ちを考えると……。TVや本とは全然違う。</p> <p>木内:『ヒロシマ』という映画を観て、あんなもんじゃなかったという思いがあるけれど、どう伝えれば伝わるのか、伝え方がわからない。</p> <p style="text-align: right;">(記入者名 島村雅人)</p>				

<返送先> 〒102-0085 東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 電話/FAX03-5216-7757